

情報公開内容

課題名：イオパミロン注を使用した腹部 CT および冠動脈 CT 検査における投与ヨード量と造影効果に関する観察研究 IOPamiorn Abdominal and Cardiac CT enhancement study (IOPAC study)

本研究の目的

造影剤を使用する腹部 CT 検査は、肝臓の疾患などを調べるために既に当院で実施されている検査であり、有用性の高い検査です。一方造影剤を使用する CT 検査では、体重や体脂肪率など患者さんの体格の違いが病変の映り方に影響するという報告があり、患者さんの体格別に造影剤量を決定するべきであると考えられますが、現時点で体格別の最適な造影剤量の詳細は確立されていません。

現在熊本大学附属病院を中心とする全国約 80 病院において「イオパミロン注（CT 造影剤の名称）を使用した腹部 CT 検査における投与ヨード量と造影効果に関する観察研究」という調査研究が実施されています。この研究の目的は日常の造影剤を使用する CT 検査で投与されている造影剤の量と造影効果（映り方）の関係を検討し、患者さんの体格に最適な造影剤の量を検討することです。当院はこの熊本大学の調査研究に協力しています。

本研究組織

主施設・研究統括医師：

熊本大学大学院 放射線診断学分野 教授 山下 康行

協力機関：金沢大学 ほか 約 80 病院

本院研究責任者

広島大学大学院医歯薬保健学研究院 放射線診断学 教授 栗井 和夫

本研究の対象

本研究承認日～平成 25 年 3 月 31 日の間に、広島大学病院において肝臓の疾患などを調べるために腹部造影 CT 検査を受けられる患者さん。

ただし、造影 CT 検査前 3 ヶ月以内に肝臓に対しなんらかの加療が施行されている患者さんは除外させていただきます（治療により CT 画像が変化する可能性があるためです）。

本研究の意義

患者さんの体格に最適な造影剤の量を明らかにすることによって、施設間によらずどのような体格の患者さんでも均一な画像検査が保証されるようになり、より正確な診断を行う事を可能になります。

本研究での評価項目

本研究では、造影 CT の撮影方法、画像およびカルテの情報をを用い、造影効果と造影剤量の関係を評価します。カルテを調べて調査することが主な調査方法です。調査項目は、患者の性別、年齢、身長、体重、体脂肪率、採血結果、既往歴、臨床診断、画像診断、手術所見、病理診断です。

本研究への参加と個人情報保護

この研究へ情報を提供したくない場合は下記までご連絡下さい。

本研究への情報提供を拒否されてもなんら不利益は生じません。

この研究に参加することで特別な謝礼金などの資金援助はありません。

学会論文発表は完全に匿名化してなされます（名前、ID、イニシャル、生年月日等の個人を特定できる情報は記載されません）。

症例の個人情報は匿名化されますので、個人情報が漏洩することはありません。

問い合わせ、苦情等の窓口の連絡先

担当者所属：広島大学病院 放射線診断科

職名：医科診療医

氏名：中村優子

連絡先電話番号：082-257-5257